

しまね広報

SHIMANE ATOMIC INFORMATION

しまね原子力広報 2016.1

No.
108



平成27年度 第4回
原子力関連施設見学会
参加者募集

島根原子力発電所周辺
環境放射線等調査結果

島根原子力発電所周辺環境調査結果
平成27年7月から9月まで
異常は認められませんでした。

表紙イラスト:島根再発見“赤瓦の輝く天領の町「江津本町」”
※8ページの島根再発見のコーナーで紹介しています。

島根県

平成27年度原子力防災訓練

島根県では、万が一の原子力災害の発生に備えて、毎年、原子力防災訓練を実施しています。

[訓練のタイミング] 事態段階	[事故発生] 警戒事態(EAL1)	[事故発生16時間後想定] 施設敷地緊急事態(EAL2)	[事故発生26時間後想定] 全面緊急事態(EAL3)	[事後発生56時間後想定] 放射性物質放出
状 態	原子力施設における異常事象の発生又はそのおそれがある状態など	事故が拡大する可能性があり、避難等の防護措置の準備を行う状態など	放射線による影響をもたらす可能性が高い状態など	放射性物質が発電所の敷地外部に放出された状態
防 護 措 置	<ul style="list-style-type: none"> PAZ(注1)内において、施設敷地緊急事態要避難者(傷病者、入院患者等)の避難等の準備を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> PAZ内において、施設敷地緊急事態要避難者は避難、住民は避難準備。 UPZ(注2)内の住民は屋内退避の準備を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> PAZ内の住民は、避難を開始する。(国等の指示があれば安定ヨウ素剤を服用) UPZ内の住民は屋内退避を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> UPZにおける緊急時モニタリングの結果を踏まえ、国は空間放射線量率などを基準に避難対象地域の決定などを行う。 避難対象地域の住民に避難退域時検査(スクリーニング)を実施。避難退域時検査は、放射性物質が付着していないことを検査し、避難に問題がないことを確認するためのもので、避難経路上で行う。 UPZ内で避難対象地区以外の住民は屋内避難を行う。
主な訓練内容	①初動対応訓練 ②オフサイトセンター設置運営訓練 ③避難行動要支援者避難訓練 ④住民避難訓練 ⑤庁舎放射線防護対策訓練			

(注1)PAZ:原子力発電所から概ね5kmまでの区域

(注2)UPZ:原子力発電所から概ね5~30kmの区域

訓練実施日: ← 10月23日 → 10月25日

①初動対応訓練(緊急時通信連絡訓練)

島根原発2号機で、事故が発生したとの想定で、島根県災害対策本部などの運営や、関係機関への通信連絡訓練を行いました。



関係機関への連絡



島根県災害対策本部会議

②オフサイトセンター設置運営訓練

緊急事態応急対策等拠点施設(通称:オフサイトセンター)である島根県原子力防災センターにおいて、国・2県・6市などから要員が参集し、内閣府や各自治体災害対策本部とオフサイトセンター間でTV会議システムを使用した情報伝達などを行い、関係機関が連携した災害対応手順について確認しました。



合同対策協議会(全体会議)

③避難行動要支援者避難訓練

松江市鹿島地区、東部島根医療福祉センター、障がい者支援施設四ツ葉園において、屋内退避訓練や避難行動要支援者(模擬)、入院患者(模擬)を安全に搬送する手順の確認などを行いました。



自衛隊ヘリによる搬送



自衛隊による搬送(松江市鹿島地区)

④住民避難訓練

4市(松江、出雲、安来、雲南)の住民の方を対象とし、一時集結所から避難退域時検査場を経由して避難所への移動を想定した住民避難訓練を実施しました。30km圏外に開設する避難退域時検査場では、車両や避難される方の体に放射性物質が付着していないかを検査しました。また、原子力防災学習会、避難所の運営訓練なども行いました。

	参加住民数	避難訓練参加地区
松江市	90人	秋鹿地区
出雲市	43人	上津地区、稗原地区、朝山地区
安来市	49人	十神地区
雲南市	47人	春殖地区
計	229人	



車両の検査



自衛隊による車両除染



避難者の検査



原子力防災学習会

⑤庁舎放射線防護対策訓練

島根県及び松江市の庁舎に設置した放射線防護対策設備を稼働する訓練を行いました。

また、県庁舎出入口に汚染検査を実施する場所を設け、放射性物質が放出された環境下での防護区画への入域手順を確認しました。



放射線防護対策設備の稼働



防護区画への入域手順の確認

島根原子力発電所周辺環境放射線等調査結果

平成27年
7月～9月

島根県では、地域住民の皆様の安全確保及び環境の保全を図るために、環境放射線等の調査を行っています。

今期の調査結果を検討・評価したところ、異常は認められませんでした。

雨や雪が降ると、なぜ空間放射線量が増える？

大気中に漂っている天然放射性物質が雨などと一緒に地上に降ってくるからです。ただし、時間とともに消えていき、しばらくすると元の値に戻ります。

空間放射線量率（固定局）

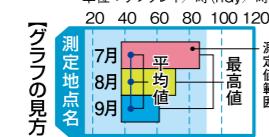
「平常の変動幅」を超える線量率が測定されました。しかし、いずれも降水等による線量率の増加によるもので、環境への影響は認められませんでした。

○平常の変動幅：

平成22年4月～同27年3月までの全データを統計処理した範囲

※1 平成25年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定です。

※2 平成26年度に局舎の移設・更新をしたため「平常の変動幅」は未設定です。



0～5km圏内

① 片句	26	62
⑦ 佐陀本郷	31	63
	32	64
	32	52
② 手結	43	71
	44	76
	44	63
⑧ 名分	31	58
	31	53
	31	52
③ 手結南	28	63
	28	63
	28	51
⑨ 北講武	28	62
	29	56
	28	54
④ 古浦	29	61
	30	65
	29	50
⑩ 上講武	37	70
	39	64
	38	61
⑤ 池平	25	61
	26	61
	26	51
⑪ 御津	33	64
	33	57
	33	55
⑥ 深田北	21	56
	21	56
	21	43
⑫ 大芦	37	72
	38	65
	38	68
⑬ 東長江	37	71
	39	75
	37	63
⑭ 比津	37	67
	38	61
	37	59
⑮ 加賀	33	63
	33	55
	33	55

放射線量率の異常値の基準は？

安全協定通報基準値 220

国が定めた通報基準値 5,000

単位：ナノグレイ／時(nGy／時)

この値を超えると、ただちに県の担当者へ連絡があり、上昇した原因を調査します。場合によっては対策会議を設置します。この値は平均値の概ね5倍ですが、人体へ影響を与えるレベルよりはるかに低い数値です。

空間放射線の測定

空間放射線量率測定（常時）

モニタリングポスト

固定局

可搬型

2分毎の観測データを送信

空間放射線積算線量測定（年4回）

積算線量計

島根原子力
発電所

コトムの広場
SHIMANE ATOMIC INFORMATION



空間放射線量率（可搬型）

持ち運びのできる可搬型モニタリングポストを11地点に設置し、空間放射線量率を測定しています。

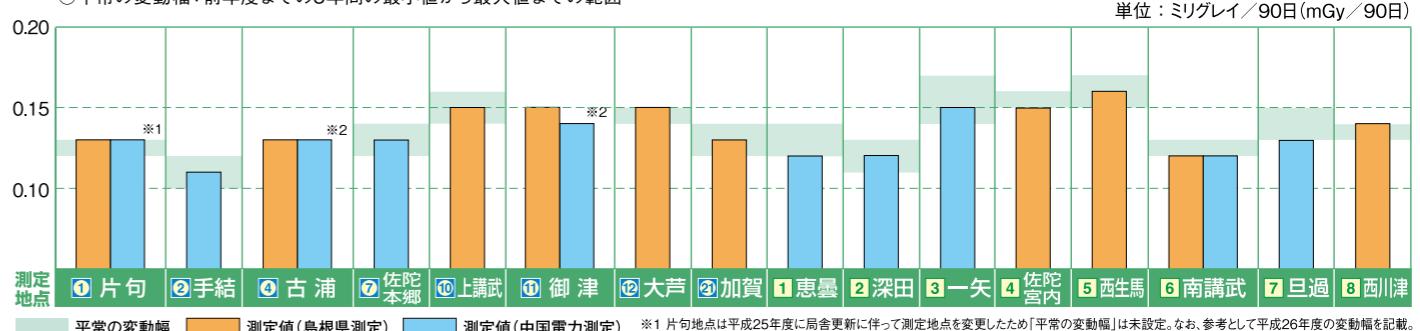
測定地點名	測定地點名			測定範囲
	7月	8月	9月	
6 美保関	43	78	69	ナノグレイ／時(nGy／時)
6 美保関	44	72	69	ナノグレイ／時(nGy／時)
6 美保関	43	72	69	ナノグレイ／時(nGy／時)
1 穴道	37	73	68	ナノグレイ／時(nGy／時)
1 穴道	38	65	68	ナノグレイ／時(nGy／時)
1 穴道	37	68	68	ナノグレイ／時(nGy／時)
2 玉湯	35	75	66	ナノグレイ／時(nGy／時)
2 玉湯	36	63	67	ナノグレイ／時(nGy／時)
2 玉湯	36	66	68	ナノグレイ／時(nGy／時)
3 八雲	51	64	67	ナノグレイ／時(nGy／時)
3 八雲	52	66	67	ナノグレイ／時(nGy／時)
3 八雲	50	67	67	ナノグレイ／時(nGy／時)
9 加茂	49	86	80	ナノグレイ／時(nGy／時)
9 加茂	51	90	80	ナノグレイ／時(nGy／時)
9 加茂	49	80	80	ナノグレイ／時(nGy／時)
10 木次	38	68	64	ナノグレイ／時(nGy／時)
10 木次	39	69	69	ナノグレイ／時(nGy／時)
10 木次	36	69	69	ナノグレイ／時(nGy／時)
11 広瀬	56	95	88	ナノグレイ／時(nGy／時)
11 広瀬	57	87	88	ナノグレイ／時(nGy／時)
11 広瀬	56	86	88	ナノグレイ／時(nGy／時)

空間放射線積算線量

－各測定地点で3ヵ月にわたって測定された放射線の合計量－

すべての地点で、平常の変動幅におさまる線量で、いずれも環境への影響は認められませんでした。

○平常の変動幅：前年度までの5年間の最小値から最大値までの範囲



環境試料中の放射能

-農畜産物、海産生物、土壤、水、塵などに含まれる放射性物質の種類と量を測定しています-

●ガンマ線スペクトロメトリーによる分析結果(平成27年7月～9月採取分)

試料区分	測定結果	平常の変動幅(¹³⁷ Cs)
浮遊塵	ND	ND
原乳	ND	ND(¹³¹ I)
さざえ	ND	ND～0.04
むらさきいがい	0.04	ND～0.03
あらめ	0.1	ND～0.12
ほんだわら類	0.07	ND～0.08

※ND:検出下限未満

※「平常の変動幅」は平成15年～22年度及び平成25～26年度の10年間の最小値から最大値までの範囲です。

※¹³⁷Cs:セシウム137、¹³¹I:ヨウ素131

※ガンマ線スペクトロメトリー対象核種 原乳：¹³¹I、その他の試料：⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁵⁸Co、⁶⁰Co、¹³⁷Cs (一部試料については¹³¹I)

※単位:植物・農産物・海産生物 ベクレル/kg(生)、陸土 ベクレル/kg(風乾物)

一部の試料から福島第一原発事故や過去の大気圈内核実験によるものと思われる微量の放射性物質を検出しましたが、島根原子力発電所の影響は認められませんでした。

●ストロンチウム90測定結果(平成27年4月～6月採取分)

試料区分	測定結果	平常の変動幅(⁹⁰ Sr)
松葉	13	2.5～12
茶	0.28	0.19～1.5
わかめ	0.13	ND～0.09
陸土(表層土)	3.0	1.9～4.7

※「平常の変動幅」は前年度までの過去10年間の最小値から最大値までの範囲です。

※⁹⁰Sr:ストロンチウム90

※ストロンチウム90の分析・評価には時間を要するため、1期ずらして報告することができます。

※単位:植物・農産物・海産生物 ベクレル/kg(生)、陸土 ベクレル/kg(風乾物)

●参考 食品中の放射性セシウムの基準値*(平成24年4月より適用)

食品群	基準値	食品群	基準値
一般食品	100	乳児用食品	50
牛乳	50	飲料水	10

単位:ベクレル/kg
※食品衛生法の規定により、食品に含有されるものであってはならないとされる値

9月12日・13日 消防団員向け原子力防災研修

消防団員の方々に、原子力防災活動に必要な基礎知識及び放射線測定器の使用方法等の習得を目的として、研修を開催しました。

研修内容

- 県の原子力安全・防災対策、放射線の基礎知識、原子力防災と防災業務関係者の被ばく防護の説明
- 放射線測定器の使い方(実習)
- 島根原発安全対策実施状況・3号機の視察



9月26日 消防団幹部団員原子力発電所視察研修

原子力災害時に消防団員の防災活動を指揮する幹部の方々に、原子力発電をはじめとする関連知識の習得を目的として、研修を開催しました。

研修内容

- 島根原発2・3号機の視察
- 安全対策実施状況の視察



11月19日 第71回島根県原子力発電所周辺環境安全対策協議会(安対協)及び島根県原子力安全顧問会議を開催

島根県民会館で安対協を開催し、会長の溝口知事をはじめ各委員、島根県原子力安全顧問など約70名の出席をいただきました。

中国電力から低レベル放射性廃棄物のモルタル充填に用いる流量計問題(以下LLW流量計問題)に関する説明や原子力規制庁担当者による保安検査の実施状況などの説明、県からLLW流量計問題に係る県の取り組み状況や島根原発1号機の廃止に伴う措置などについて報告を行い、活発な質疑応答が行われました。

- 【議題】 ○LLW流量計問題
○島根原発1号機廃止の経過と県の対応



また、原子炉工学や環境放射線などの専門家で構成する島根県原子力安全顧問会議を開催し、中国電力からLLW流量計問題に関する説明や2号機の新規制基準適合性に係る審査状況についての報告を受け、各顧問より意見や助言をいただきました。

- 【議題】 ○LLW流量計問題
○島根原発2号機新規制基準適合性に係る審査状況



議事録など詳細については、原子力安全対策課ホームページで公開しています。
http://www.pref.shimane.lg.jp/bousai_info/bousai/genshiryoku/anntaikyo.html

原子力防災に関する講演会を開催しました

10月に県内2会場で、「島根県の総合力で県民を守る」と題し、県内の防災関係者を対象として、原子力防災の特徴や心構えなどについてご講演をいただきました。

また、避難対策など島根県の原子力防災について県の担当者から説明を行いました。

[講師] 横浜国立大学 リスク共生社会創造センター長
大学院環境情報研究院 教授
野口 和彦 氏 島根県原子力安全顧問 ・出雲市原子力安全顧問

浜田会場 10月29日(木)

島根県立大学 浜田キャンパス
参加者数 65名

出雲会場 10月30日(金)

パルメイト出雲
参加者数 101名



講演の内容はわかりやすかったですか

- | | |
|---------|--------------|
| 理解できた | あまり理解できなかった |
| 少し理解できた | まったく理解できなかった |
| 無回答 | |

講演の内容は聞きたい内容でしたか

- | | |
|-----------|---------------|
| 聞きたい内容だった | 聞きたい内容とは違っていた |
|-----------|---------------|

アンケート結果(詳細)については、原子力安全対策課ホームページで公開しています。
http://www.pref.shimane.lg.jp/bousai_info/bousai/genshiryoku/kouennkai.html

参加者からのご意見・ご感想の一部

- リスクマネジメントに対する考え方について行政として、今後どの様に対応すべきか、考えさせられました。また、行政と市民、事業者が事前に情報共有することが大切であると感じました。
- 行政と市民でやるべきことからやっていくことが大事と感じました。最悪の事態ばかり考えていましたが、できないと感じました。
- 防災については理解できた(考え方)が、原子力災害の場合の具体的な対応について、特に受入れについてもう少し聞きたかった。
- これからも時々このような防災研修会に参加して、危機管理能力と危機意識を高めたい。

平成27年度 第4回 原子力関連施設見学会 参加者募集

島根県では、原子力発電についての正しい知識と、県が実施している環境放射線モニタリング等の安全対策や防災対策などについて皆さんに知っていただくため、住民の方を対象とした原子力関連施設見学会を開催します。

■開催日時

平成28年 3月4日(金) 9:15~15:45

■応募先

島根県 原子力安全対策課 見学会係

ページ下の連絡先までご応募下さい。

●応募締切 平成28年2月18(木)必着

●募集人数 50名

●集合場所 :島根県原子力防災センター
島根県庁西方向 徒歩3分、島根県職員会館北側

9:00~ 9:15

■見学先

●島根県原子力防災センター(松江市内中原町)

■島根県の原子力安全・防災
対策について説明

■施設見学



●島根県原子力環境センター(松江市西浜佐陀町)

■原子力環境センター紹介
■放射線測定体験
■施設見学



●島根原子力発電所(松江市鹿島町片句)

■概要説明
■運転訓練シミュレータ見学
■原子力発電所構内見学
(バス車内から)
発電所建物内部には
入れません。



*各施設における説明内容等は
変更になる場合があります。

【注意事項】

◎ハガキに参加を希望されるすべての方の住所、氏名(ふりがな)、電話番号、生年月日、当日持参される身分証明書の種類(運転免許証、パスポート、写真付き住民基本台帳カード)をご記入の上、ご応募下さい。ハガキ1枚で複数の方の応募をされてもかまいません。なお、電話やFAX、メールでも申し込みができます。

※電話の受付は、平日の9時~17時です。また、応募内容の個人情報は、見学会の目的以外に使用することはありません。

◎参加費は無料です。(受付場所までの交通費は参加者負担とさせていただきます。)

また、県庁にお越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。

◎昼食は県で用意し、移動は貸切バスで行います。

◎小学生以下の方は保護者同伴でお願いします。

しまね再発見

赤瓦の輝く天領の町「江津本町」



左上／本町川通り 上／旧江津郵便局

“江津”は、江の川の港を意味する地名。中国山地から流れ出る江の川と、海岸沿いを走る山陰道の交点に位置する江津は、古くから物流の要所として栄えた町です。そして中世には朝鮮半島との交易が行われたほか、石見銀山が幕府の直接支配する天領になった際には、川の東側とともに、港のあった西岸の江津本町も天領に組み入れられました。

この江津で石見焼が行われるようになったのは1700年代後半。水道が整備されていなかった当時は、生活用水や農業用水をためておく必要があり、石見焼の大きな水瓶、“はんど”が重宝されていました。そして江戸時代後期、この“はんど”が更なる大ヒット商品となる技術革新が行われました。それは、極めて高い温度に耐えられる陶土と、同じく高温に強い来待石の釉薬を使って、高温で焼き上げる技術。これにより、硬くて衝撃に強く、凍結にも強く、さらに酸やアルカリにも侵されない、石見焼の赤い“はんど”が誕生。味噌や塩辛づくりなどに重宝されたほか、春先に温度の変化に耐えられず、畑の片隅で割っていた“はんど”が、割れにくいものに生まれ変わったのです。こうして、江津本町の港では、石見焼の“はんど”が取り引きされ、北前船で全国に出荷されました。また同じ技術を用いて石州瓦が開発され、“はんど”とともに、港から港へと運ばれていました。

江津本町は、まさに江津の中心街として栄えた町。江戸時代の建造物や、明治期に洋風デザインを取り入れた旧江津郵便局、馬を繋いだ鼻繩り岩など、長い歴史を物語る貴重な資源が伝えられています。



通りの所々に置かれた“はんど”が町を紹介

アトムの広場
SHIMANE ATOMIC INFORMATION
しまね原子力広報 2016.1

「アトムの広場」に関するご意見・ご感想等がありましたら、
島根県原子力安全対策課までお寄せ下さい。

※島根県 防災部 原子力安全対策課

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
TEL(0852)22-6521(見学会係)
FAX(0852)22-5930
URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/genan/>
E-mail gen-an@pref.shimane.lg.jp

編集・発行

2016年1月発行

※平成27年度広報・調査等交付金事業により作成しました。



この印刷物は環境に優しい
ペジタルインクを使用しています。